

## 第3WG 評価コメント

### 評価者のコメント(評価シートに記載されたコメント)

### 事業番号3-54 全国学力・体力テスト

#### (1) 全国学力調査

#### (2) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

サンプル調査をもっと小さい母数で。

具体的な学力(体力)向上施策に集中すべき。

学力調査、体力調査ともに、調査結果を活かして実際に生徒の学力・体力の向上施策に税金を投入すべき時期である。具体的政策を計画するのが本省の役割である。

そもそも不要。学力観を時代に合わせる必要あり。体力テストはこれまで通りサンプル調査で充分。

それぞれ目的を明確にして、最もコストの安い方策を再検討すべき。調査目的が不明確では実施の意味がない。

サンプル調査でよい。

地方が主体で問題の共通性等は国がやるのも一案。

何を調べようとしているのか良くわからない。全国学力テスト: サンプル率を下げても充分。40%は考えられない高さ。体力テスト: 従来の方法で充分でない点が見えない。実施の必要性が分からない。

毎年行う必要はない。目的を明確にし、それにもっとも効率的・効果的な方法に変更するまで見送り。

学力 抽出率2~3%で全国及び都道府県別の状況を把握が可能。希望がある場合は自治体負担で実施。体力 サンプル調査で充分。

目的が不明確になっているだけに、よりサンプル調査において、より、その目的に沿って、学力の向上の把握が可能となるようにすべきである。

3年間悉皆調査したのだから、(1)学力サンプル調査: 前年度57億円の1/10の6億円程度で。経年比較可能な調査。(2)全体調査: 60億円は5年か10年に1度とする 基金。(3)体力調査は3億円で3年間やってみてから、サンプル調査へ移行。9億円+基金(5年か10年に1度の「全国学力祭り」悉皆調査の積立て)

サンプル調査+5年に一度の全数調査。

学力テストは6%抽出で。体力テストも同様のサンプル調査で行う。

## WGの評価結果

---

### 全国学力・体力テスト

## 予算要求の大幅縮減(抽出対象の絞込み)

(廃止5名 自治体/民間の判断1名 予算計上見送り2名 予算要求の縮減6名(半額1名、1/3縮減3名、その他2名))

## とりまとめコメント

---

廃止5名(学力テストの廃止5名、体力テストの廃止6名)、自治体/民間の判断1名、予算計上見送り2名、予算要求の縮減6名であり、その内訳は、半額1名、1/3程度縮減3名、9割縮減1名、6%抽出1名である。基本的には半分以上の評価者が今のようなやり方の学力テスト・体力テストはやめるべきとしており、継続して傾向が取れるようなやり方・方法で、抽出する対象を絞り込むということを経験者の結論とする。